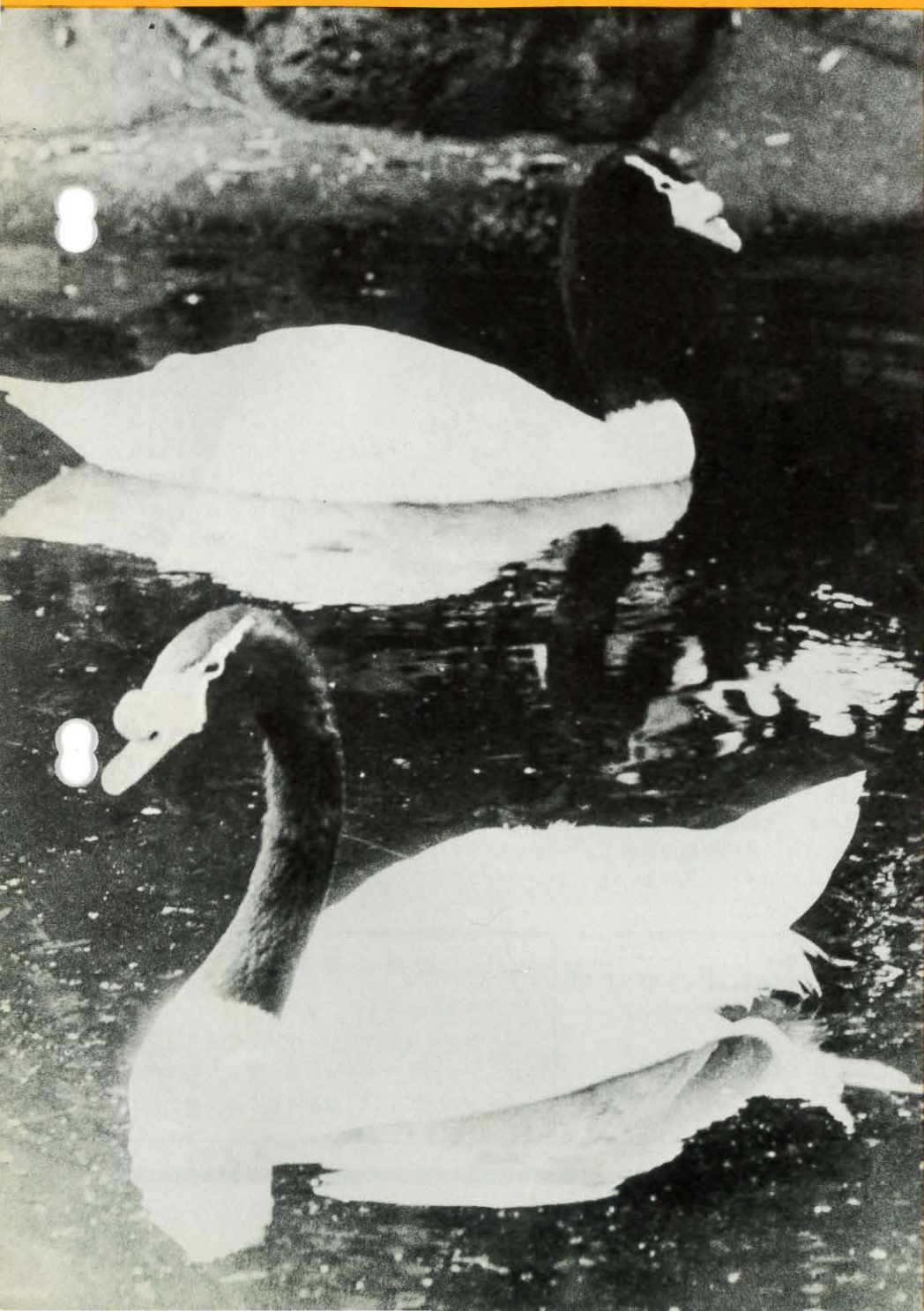


なきごえ



1976

9

大 阪 市
天王寺動物園協会

動物と私

昆虫と40年 春木 蝶 夢

子供の頃はさまざまな探究心が旺盛であり、とりわけ自然、生物については関心と興味が強いものである。私も例外でなく身体の弱かった事もあったが、小学校5、6年生の頃より好んで山を歩いた。その内何んとなき歩いてつまらなく、目に写るもの動物でも、植物でもその名前を知る野望が出て来た。このあたりが私の昆虫への興味を持ち始めた起りと
言へよう。

始めて採集に出かけたのが、枚岡公園～生駒山のコースで、大きなカラスアゲハの夏型、スミナガシ等を探って大喜びをした事、当時は小阪（現東大阪市）に住んで居たので、池や畑等も多く、夕方になるとよく「ブリ」と言ふ40～50センチの糸の両端に餌に見せかけた小石を色紙で包んだおもりを付けたものでトンボ（ギンヤンマ）方言でをラッポ、よく生育した早をドロッコン、交尾して飛んで居るやつをギ、と言って昼間は長瀬川でギをよくつかまえて得意気になったものでした。又自宅のバラ畑をめぐらと休んでいるギンヤンマを懐中電灯を片手に手づかみで、一晚に40匹や50匹もとれた事等なつかしい思い出が多い。

戦争中も採集によく行った。なかでも当時関西一の好採集地であった箕面へ再三出かけた。カラスアゲハが数10匹も群がって吸水したり、ギフチョウもよく採集した。箕面での楽しみは滝道で今も残っているが、道路わきにある木柵模様のコンクリートの柵で、カミキリを始め各種の雑甲虫が沢山くっついてる事でアカスジキンカメムシもこゝで始めて採集した。今も1940～1942年、箕面のラベルがついたギフチョウ、ミノモサビカミキリ（コブスジサビカミキリ）枚岡のスミナガシ（1938年）等が標本箱に健在である。戦禍のはげしい折も採集には苦勞しながらよく出かけた。赤目香落溪へ行った時は、帰る途中で何度か空襲警報で電車が止められ、最後は家迄歩いて夜中過ぎてたどりついた事、又私鉄でも長距離や、大阪市内行きの切符を売らない為、夜勤の証明書を作ってまでして岩湧山、高野山へ行った事等、今では夢の様な楽しい思い出である。



戦後は間もなく小田、鷺塚、辻本両氏等と南大阪昆虫同好会を作り、年4回の会報発行、採集会等を行ったりもした。この頃はカミキリや甲虫類を熱心に採集し、カエデの花に集るカミキリ、オサムシの冬期採集方法もこの頃に覚えた。1960年代になり日本鱗翅学会の活動が盛んになり、私も甲虫より蝶、それも外国の蝶類、特に日本の蝶に分布関係の関連が深い東南アジアの蝶蒐集に力を入れた。種類ではPrecis（タテハモドキ）に興味を持ち、タテハモドキの国アフリカのタテハモドキをかなり集めた。又台湾の蝶も殆んど蒐集していたが、62年に台湾大学の故易希陶教授の大へんな御協力で日本鱗翅学会のオ一回海外派遣の一員として、九州大学白水教授等と日本人として戦後初めて台湾へ遠征し、台湾の蝶が飛んでいる状況を、現実に目でたしかめ分布、生態の観察が出来、より知識を豊かにする事が出来ました。

最近仕事が一層忙しい中であって、少なくなって行く蝶や、甲虫の飼育を楽しみ、その生態観察に力を入れて居ります。

最近美ヶ原ビーナスラインの建設が環境庁より許可になり、反面長野県では蝶の採集を全面的に禁止したとか聞きますが、蝶の研究もまだまだ課題が多いのに、自然保護何の策をもって論ずるのか、人間本意の環境変化等もっと強い反省と研究を御願いたいものである。

日本鱗翅学会会員

なきごえ9月号もくじ

動物と私.....	2
シマウマの赤ちゃん誕生.....	3
動物園グラフ.....	4・5
感想文.....	6・7
天王寺の動物たち(17).....	8・9
獣医室から⑬.....	10
動物園ニュース.....	11

表紙の写真説明

“クロエリハクチョウ”

頭と首がまっくろでも、やはりハクチョウの仲間。クロエリハクチョウは南アメリカに住んでいます。（撮影：長瀬 健二郎）



“シマウマの赤ちゃん誕生”

7月4日、グラントシマウマの赤ちゃんが生まれました。母親はこれが2度目のお産で、仔は母親の深い愛情につつまれて、すくすくと育っています。

（撮影 宮下 実）



動物園グラフ

“サマースクール”

8月1日～7日まで、小学生4～6年生 105人が出席してサマースクールが開講されました。その内容の一部を御紹介しましょう。

(撮影：宮下実・長瀬健二郎)



↑ 珍鳥キーウイのスケッチ。翼がほとんどなく足の太いこと。



↑ まとめた内容をみんなの前で研究発表。マイク片手に、何かご質問は？

↑ ゴリラの餌は？ すんでいるところは？ ボランティアのお姉さんの説明を一生けんめいメモしています。



↑ 一番人気のあったのが、人工哺育のトラとライオンの赤ちゃん。ボクにも抱かせて！



↑ ダチョウの卵はニワトリの卵の何倍かな？ 実際に水を入れて容積をはかってみました。



↑ 各班に分れて勉強した内容のまとめ。



↑ 最後に園長さんから修了証をもらって閉講。

7・8月の動物園日記

- 7/28. ビューマのメスが食欲不振なので治療しています。
- 29. メガネカイマン1頭とギリシアガメ2頭の寄付がありました。
- 30. クロヒョウが交尾しました。
- 31. カンムリワシが死亡しました。
- 8/1. オ2回目のサマースクールが開講されました。
- 4. ワカケホンセイインコが死亡しました。

キングペンギン1羽がピッコをひいているので治療してやりました。

- 7. オ2回目のサマースクールがこの日で閉講しました。
- 9. 警察からスローロリスの持込みがありました。
- 10. イワシャコが1羽死亡しました。
- 11. 台風シーズンにそなえフラミンゴの羽切りを行いました。
- イワトビペンギン2羽の爪がのびすぎていたので切ってやりました。

- 12. シマウマ舎の寝室の改装工事をしています。
- 13. キングペンギン1羽にアスペルギルス症の疑いがあるので治療を始めました。
- 15. コビトコブウシのメスが下痢をしているので治療しました。
- 16. ホオジロテナガザルが死亡しました。
- 17. フラミンゴが産卵しましたが、親が暖めないのでふ卵器に入れました。
- ハナシカが仔を1頭出産しました。
- 19. クロヒョウのオスとハナビョウのメスが交尾しま

- した。
- 20. チンパンジーのサクラが下痢をしているので治療してやりました。
- アカカンガルーの子がお母さんの袋の中から初めて顔を出しました。
- 21. アオゲラのヒナ3羽の寄付がありました。
- 22. コバタンが1羽死亡しました。
- チンパンジー舎の運動場に遊戯具を取り付けてやりました。
- 23. サイが下痢をしているので治療してやりました。

サマースクール感想文

第2回サマースクールに参加したお友達の感想文を集めました。

熊野田小学校 四年二組 松原 昌巳

楽しみにしていた天王寺動物園のサマースクール、自然史博物館に集合。

ぼくは、2はんでかさい先生と長瀬先生です。

一日目は、こっかくのスケッチと動物のスライドなどの勉強。

二日目は、はんどごに先生の話を書き動物のかんさつと見学をしました。

三日目は会き室で研究発表です。

ぼくたち2はんは、ざつ食動物と肉食動物と草食動物を発表しました。

三日間のサマースクールでぼくが勉強した事は、動物の心とぼくの心のふれあいでした。

「動物」とは、ほんとうにかわいいんだなあと思いました。

おりの中にあんなにこわいと思っていたライオン、そして、ライオンの赤ちゃんとてもかわいかった。ぼくもライオンの赤ちゃんをこわがりながらさわった。でも何もしない。とてもかわいいと思った。かさい先生と長瀬先生そしておねえさんありがとう。

大阪教育大附属平野小学校 四年 猪妻 祐子

第一日目、雨がものすごくふっていた。私は、行くのがいやだったがお母さんといっしょに、長居のはく物館へ行った。へやで出席を取ってもらい、少し館長さんの話があった。勉強には入って、動物の種類と歯の関係を教えてもらった。自然のしくみはうまくなっていると思った。昼からはく物館を見てまわり、木の葉ちょうが木の葉ににいたり、かまきりが花ににいたり、そんな自然のしくみが目についた。

二日目は、動物園で、グループごとにわかれて活動し、私のグループは、かちくや、わし、たかなどの種類について、食べ物とか、歯のことについて教えてもらい、この時は、班の子全員仲よくなっていてとても楽しかった。昼からは、とくべつにライオンとトラの子供をだかしてもらい、サマースクールに行き、(とても、よかったなあ)と思った。

ふつう、ライオンやトラは、こわい物だとばかり思っていたけれど(ねこと同じようで、とてもかわいいな!!)と思った。この後、うさぎもだかしてもらったけれど、後ろ足の力が強く、だきにくかった。私は、ふつうだったらだかせてもらえないのに、だかせてもらったからサマースクールに来てよかった。

三日目は、二日目と同じで、動物園で、グループ活動をしていた。朝のうちは動物園全部見てまわって、ヒョウの赤ちゃんを見た。この赤ちゃんは、一

か月ほど前に生まれたと言うのにもう歯が全部、はえていたので、おどろいた。この後、昼からの研究発表のために、大きな画用紙二まいに、メンヨウ、ヤギ、ワシのことをまとめて書き昼食をすませて、美じゅつ館へ行き、研究発表をしました。私のグループは、うまく行かずしつもんばかりさかれていました。けれど研究発表の他は、みんなうまく行き、とても楽しく、この三日間のサマースクールをすごせたとと思う。

太子橋小学校 五年二組 山二 健太郎

ぼくは、動物が好きなので、サマースクールにさんかできる知らせがきた時、うれしかったです。まず第一日目には、飼育係の一日という、スライドを見ました。おじさんたちは動物たちの健康じょうたいを調べたり、おりをきれいにし、えさをあげたり、最後に今日の、健康じょうたいを報告しなければならぬので、みんな動物が好きな人たちだろうと思いました。ぼくは、一日に二回ぐらいえさをあげるのかと思っていたら、一日に一回しかあげていなかった。それだけ、えさをやる仕事は、たいへんのかなど、思いました。自然史博物館にあるしま馬や、犬の頭の骨を、スケッチしたら思っていたよりもふくざつなくみになっていました。

三日目は、すごい雨だった。ふっている間に高速路の下で自分が調べたことをノートにまとめていた。雨がやんだので、先生といっしょに園内の動物全部を見学しました。ちょうど、生れたばかりの、大づるのひなを、親が大きな羽を広げて、守ってあげたり、口ばしでえさをじょうずにあげていました。午後から美術館で、研究発表があった。ぼくは、くま、ワシ類の特長を発表しました。先生が、いろいろ説明してくださるので、今までに知らなかったことが、よくわかりました。ぼくは、千葉から来たので天王寺動物園は初めてだった。サマースクールにさんかして、ほんとうによかったと思いました。

九条東小学校 五年 水山 由美

私は、八月一日から三日まで天王寺動物園のサマースクールに参加しました。

ボランティアのお姉さんやお友だちとも仲よくなつて、みんなで遊んだり勉強したりしたので、とても楽しかったです。

それから私は、たったの三日間で動物が大すきになりました。

今までぜんぜん知らなかった動物のことやせいしつなどをくわしく教えて下さったのでとても勉強になりました。

私は、これからのいろいろな動物のことを勉強していきたいと思っています。

大きくなってもサマースクールのことは、わすれません。

そして私もボランティアのお姉さんのように、かつどうをしたいと思います。

動物園の方、これからもサマースクールをずっと続けて下さい。

私もまた参加したいと思います。

その時には、もっといろいろ教えて下さい。

ありがとうございました。

阿倍野小学校 五年 吉川 佳秀

ぼくは、このサマースクールを首を長くして楽しみにまっていた。その前日は、そわそわして落ち着きませんでした。

どんなことをするのだろうか、学校でも、家でも、学ぶことの出来ないことを、この八月一日～三日まで見たり、聞いたりして勉強しようとはりきって家を出ました。

一日目、自然史博物館に集合して、班のへんせいをすませ、博物館の中を見学しました。

展示室の中は、骨格でいっぱいでした。歯の形は、全部ちがっていました。ずっと歯を見ていると今にも、食べられそうに思いました。それから、動物の話・骨のスケッチなどをしました。

二日目は、動物園で、班ごとに別れて、動物を見学しました。

午後からは、四ツ橋で「つめときば」という動物の映画を見ました。食べ物を取ったり、食べたり、身を守るために、どんなに必要かということがよくわかりました。

最後の日、各自で園内を見学し調べて研究発表をしました。

ぼくは、インドやまあらしという、めずらしいハリのもった動物の住んでいるところ・持ちょう・えさ・性しつなどを発表しました。

発表している間の時間は、ドキドキして、ものすごく長く感じました。

ふだん、ぼくたちが動物園で、動物を見るには、飼育係や、動物たちの病気をなおす医む室の人たちのかげの力がいるということがよくわかりました。こういう機会があれば、又、参加していろいろなことを知り、学びたいと思います。

豊里小学校 六年 和田 喜之

ぼくは、このサマースクールに行きとてもよかったと思う。動物の研究をしていて、初めて知ることがいろいろある。たとえば、ぞうの歩き方・その動物の食べ物・特色などだ。先生や、獣医の先生もやさしくとても楽しかった。

一日目は、雨でいやだったけれど先生とぬけ出し

て公園の中を見て歩いたのは、おもしろかった。博物館の中に、人間の骨があったけれどあれがほんとうの人間の骨と聞いてとてもびっくりした。

二日目は、動物園の事務所に集合だ。ぼくたちは、遠いので、いつもラッシュの8時に家を出なければならぬ。でもついたのは一番だった。にもつをおいてさっそく見学をした。獣医の先生がいろいろせつめいしてくれた。帰りしな、いっしょに行っている近所の子に聞くとライオンの子どもや、トラの子どもをだいたと言っていた。次の日ぼくもだきたいなどと思った。次の日は研究発表なので、家で、研究したことをまとめなければならなかった。ぼくは、ぞうをうけもった。大学ノートに2ページしかかかなかつたけれど、まあまあよくできたと自分では、思った。

三日目、とうとう研究発表の日が来た。午前中は、園内を見学した。ライオンやトラの子どもを、だこうと思つたけれど、だけなかつた。2時から美術館で研究発表をした。みんなうまく研究しているなど、感心した。

来年も参加したいけど、来年は、中学なのでさんかできないのでとてもごんねんだ。でも小学生最後の夏休みにとてもいい思い出ができたな。

弁天小学校 六年 岩佐 尚子

私は、動物園のサマースクールに参加してとてもたくさんを学び良い思い出が出来ました。私たちは、猛禽類・小獣類・草食類の中でもヤギ・メンヨウ・ウサギ・パーバリシープのことなどを調べました。

ライオン・トラ・ヒョウ・オマキザルの子供を抱いたり、ツバメの子供にもえさをやったりしました。アライグマとあく手もしました。

はじめて知つた事は、ヤギやメンヨウの上の歯がないという事、ヤギなどの目のどうこうが、横長だという事、動物園に、はいつてきた動物は、動物園になれるまで、動物園内のべつのでかつかう。スカンクは、動物園にはいると、ガスのはいつているふくろをとるとのことなどです。

しゅう係さんの後についてえさをやるようすや、そうじをするようすをみました。

にわ鳥・くじら肉・キャベツ・リンゴ・サツマイモ・バナナ・アジなどで、スカンクだけミルクがまじっていました。私たちが、しゅう係さんの後からついていったせいか、キツネやタヌキがびっくりしていました。みんな目がとてもきれいでした。

サマースクールに参加して、なりたかつた獣医やしゅう係に、よけいあこがれました。

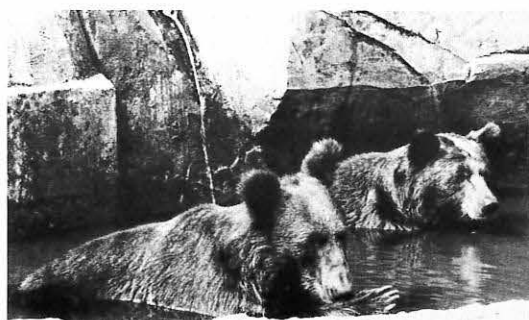
それに、ふつうみられない所を見れたのがよかつたと思います。

天王寺の動物たち (17)

エゾヒグマ

どっしりした大きな体でチョコンと座つたり、2本足でうまく立ち上ってお客さんに愛嬌をふりまきエサをねだるクマ。それを大人も子供もニコニコしながら見ている。こんな光景はどこ動物園でもよく見かけられるものです。お客さんが動物にエサを与えるというのは動物園側にとって一番困ることなのですが、それはさておき、クマはゾウやキリンと並んで人だかりの最も多い人気のある動物のひとつです。しかし、その反面お客さんが事故を起すことの最も多い動物のひとつがクマです。これはお客さんが童話の世界で善玉をつとめることの多いクマを誤解してのことではないでしょうか。サーカスの猛獣使いの人々の間ではクマはライオンやトラよりもはるかに危険であるという事が定説になっている位だそうです。

さて現在世界中には7種のクマが生息しています。このうちの4種が天王寺にいるのですが、今日はこのうちのエゾヒグマのことをお話します。

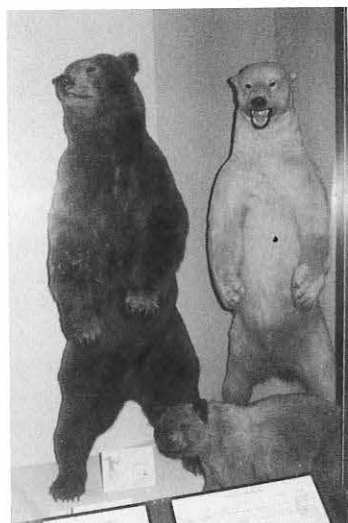


エゾヒグマは水浴びが大好きです

クマはホッキョクグマ、ヒグマ、ヒマラヤグマ、アメリカクロクマ、マレーグマ、ナマケグマ、メガネグマの7種に分けられます。(この他アライグマ、ハナグマ、アナグマなどクマという字のつくいろいろ

るな動物がありますが、上の7種以外のクマはクマの仲間ではありません。)このうちヒグマはヨーロッパ、アジア、シベリア、北アメリカ、など世界各地に生息していますが住む地方などによってアラスカヒグマ、エゾヒグマ、ハイログマなどに細分されます。(こういうのを亜種と言います。)ヒグマの中で最も大きいものはアラスカヒグマで体長(鼻の先から尻の最も突き出した所までの直線の長さ)が実に3メートル、体重は800キロにもなると言われます。ライオンやトラでもせいぜい200キロ位ですから、このアラスカヒグマは陸上では世界最大の肉食動物ということになります。

余談になりますが、最近、「グリズリー」というハイログマ(別名グリズリーベア)を主人公にした映画が上映されました。この映画の広告でこのクマは体重が1000キロもあるということになっていましたが、これ



ホッキョクグマ(右)より一回り以上大きなアラスカヒグマ(左)手前はアメリカクロクマです

は全くのお話しで実際のところ最も大きなハイログマでもせいぜい400キロ位です。

エゾヒグマはヒグマの中ではやや小型で体長が2メートル、体重は200~300キロです。天王寺のエゾヒグマはオスとメスですが、オスもメスも大体150キロ位です。オスが昭和47年、メスが43年に天王寺にやってきました。エゾヒグマには毛が黒いもの

と赤茶色のものと2つのタイプがありますが、天王寺にいるのは両方とも赤茶色の毛をしています。また本州にいるクマはツキノワグマと呼ばれ、胸に白い三日月の紋があるのが特徴といわれますが、時に三日月のないツキノワグマもいますし、また胸に三日月のあるヒグマもいますので、胸の白い三日月だけで種類を区別するわけにはゆきません。

エゾヒグマは北海道だけに住んでいるのですが、日高山系、大雪山系、天塩山系それに知床半島などに特に多く住んでいるそうです。その数は全北海道で3000~4000頭と推定されています。食物は雑食性

で果実、木の根、実、芽といった植物質と蜂の子、魚、それにノネズミ、ザリガニ、昆虫などの動物質も食べます。死んだ動物でもよく食べます。ですから、クマと



会った時、死 チョコンと座っておねだりする2頭んだふりをしてもとてもダメなようです。

エゾヒグマのメスは4才から8才まで出産が可能と言われます。仔は冬眠中の1~2月頃に1~3頭、ふつう2頭の仔が生まれます。体重は約500グラム。モルモット位の大きさです。母親が200キロとすると仔は400分の1位です。人間の赤ちゃんはお母さんの17分の1位ですから、エゾヒグマの仔がどれほど小さく生れてくるかよくわかると思います。この小さな赤ん坊も1年程で90キロ位にまで成長します。

小さく産んで大きく育てるという人間のお母さんのお手本ですね。

母グマはこの小さな仔グマ達をととても熱心に育てます。ですから仔グマを連れて母グマがクマの中で最も危険なクマであるとよく言われます。危険なクマには3つあって、まずこの子連れグマ。そしてケガをした手負いのクマ。それに冬眠のための穴を見つけられないで冬の間もさまよっている、いわゆる「穴もたず」といわれるクマ。この3つです。3つの中でも一番危険なのがこの子連れグマで、アメリカのクマによる人身事故の7割がこの子連れグマによると報告されています。

毎年のようにエゾヒグマによる人身事故が報じられます。1955年~69年までの15年間で死者20人、負傷者55人。という報告もあります。平均すると1年で1.3人の死者と3.6人の負傷者です。その対策として毎年500頭以上のエゾヒグマが捕獲されていますが、事故は目立って減る様子もないようです。



仲の好い2頭はいつも一緒です。

この陸上では日本最大の肉食獣であるエゾヒグマの絶滅を防ぎ、また人身事故も起らないようにするといった、ヒトとクマの平和共存への道はまだまきびしいようです。

(飼育課長 瀬 健二郎)

獣医室から ⑬

タンチョウ雑話

先月号でもお知らせしましたように、去る6月30日タンチョウが1羽誕生しました。ふ化に要した日数は33日、ヒナの大きさは体長約10cmでした。2ヶ月たった今、ヒナの体長は約1

mにも達し、ずいぶん成長しました。ところで今年はオスの体調が思わしくなかったため、まさか繁殖に成功するとは思いませんでした。というのは、今年の1月頃からオスの胸や首の羽



毛が抜けだし、4月頃には胸の羽毛がすっかり抜け落ちて丸裸同然。最初はハムシのような外部寄生虫を疑い、捕えて検査したり薬浴も何度行ったのですが全く効果がありません。次に換毛の促進をはかるためにホルモン剤を投与しましたが、効果も今一つでした。それではと、栄養のバランスが悪いのか、あるいは内臓疾患によるものか、それとも老令

(年令28才)によるものかといういろいろ考え、ビタミン剤、栄養強壯剤、動物性飼料の多給などを行っていたところ、5月28日、メスが産卵したわけです。オスの状態から考え、まさか受精卵とは考えられず、9割あきらめて



右がオス。胸の羽毛がほとんどぬけました。

いたわけです。従って6月30日の朝、ヒナが誕生した時の驚きと喜びは非常なものでした。ツルを担当している浅田係員はヒナの育成に非常に気を配り、ヒナのためにミミズをさがしたり、ミルワームを集めたり、ドジョウや魚を細かくきざんだり、屋根に雨よけ、日よけ用のテントを張ったりで、涙ぐましい努力を続けました。おかげでヒナはすくすくと成長し、それにも増してうれしいことは、裸同然だったオスの羽毛がきれいに生えてきたことです。ヒナへの愛情をそそぐ結果、体調に変化が生じてよくなったのか、薬がきいたのかよく分かりませんが、どちらにしても結構なことです。

ところでこの誕生したヒナは当園では27年ぶりのタンチョウの誕生ですが、オスは昭和46年にメスに先立たれ、ずっと独身ですごってきており、一昨年8月、中国の北京動物園より、花よめとして今のメスをもたらしたわけです。ですからこのヒナは日中親善交換動物の誕生第1号、日中Ⅱ世です。

このメスは中国から来た当時はまだ2才位で、完全な成鳥の色にはなりきっておらず、はたして本当にメスなのかどうかよく分かりませんでした。ツル類は外見から全くオス、メスの区別がつかないため、オス、メスの判別には非常に困ります。そこでオスカメスカを確実にするため、入園早々、血液を少しとり、染色体を調べました。結果は性染色体ZWを



メスの染色体

有するメスと判定しました。2年後の今、染色体の検査どおり、メスであることが実証され、検査した私自身もうれしきで一杯です。

(飼育課 宮下 実)

動物園ニュース

☆ラングーン動物園との動物交換

かねてからビルマのラングーン動物園と動物交換の話すすめていましたが、このほど交換が成立しました。当園からは7月20日、タヌキ2頭、キジ2羽、アグーチ2頭を贈り、ラングーン動物園からは7月23日、ブラックタートル2頭、ムツマシガメ2頭



☆アカカンガルー誕生

5月頃からアカカンガルーの袋の中に赤ちゃんが入っているのが確認されていましたが、8月20日、初めて袋から顔を出しているのが認められました。この母親は昨年



夢が広がるショッピング…… 近鉄がお届けします



上本町近鉄 TEL. (06) 779-1231

アベノ近鉄 TEL. (06) 624-1111

奈良近鉄 TEL. (0742) 33-1111



東京近鉄



したが、7月23日の朝、かわいいヒナが1羽誕生しました。昨年も1羽誕生生育しており、2年連続のおめでたです。



休園のお知らせ

毎月第三月曜日は休園日です。9月～11月の休園日は下記の通りです。

9月20日、10月18日、11月15日
開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売り止めです。

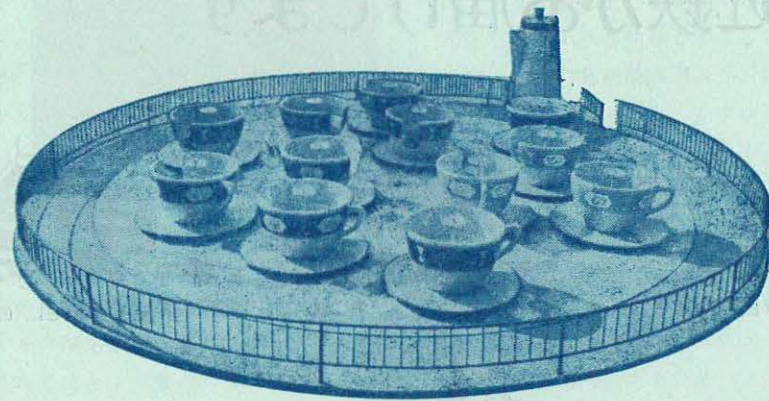
タンチョウ雑話

先月号でもお知らせしましたように、去る6月30日タンチョウが1羽誕生しました。ふ化に要した日数は33日、ヒナの大きさは体長約10cmでした。2ヶ月たった今、ヒナの体長は約1mにも達し、ず



いたわけです。従って6月30日の朝、ヒナが誕生した時の驚きと喜びは非常なものでした。ツルを担当している浅田係員はヒナの育成に非常に気を配り、ヒナのためにミミズをさがしたり、ミルワームを集めたり、ドジョウや魚を細かくきざんだり、屋根に雨よけ、日よけ用のテントを張ったりで、涙ぐましい努力を続けました。おかげでヒナはすくすくと成

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹 娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40
電話 大阪(06)541-3112・3938 番



メスが産卵したわけです。オスの状態から考え、まさか受精卵とは考えられず、9割あきらめて

右がオス。胸の羽毛がほとんどぬけました。

タンチョウツル

メスの染色体有するメスと判定しました。2年後の今、染色体の検査どおり、メスであることが実証され、検査した私自身もうれしきで一杯です。

(飼育課 宮下 実)

☆ラングーン動物園との動物交換

かねてからビルマのラングーン動物園と動物交換の話すすめていましたが、このほど交換が成立しました。当園からは7月20日、タヌキ2頭、キジ2羽、アグーチ2頭を贈り、ラングーン動物園からは7月23日、ブラックタートル2頭、ムツアシガメ2頭、ムチヘビ10頭を贈って来ました。今後、当園とラングーン動物園のムツアシガメ(両はし)とブラックタートル親交が深まり、日本とビルマの親善に役立てば非常に喜ばしいことです。



☆昭和51年度サマースクール開講

昨年に続き今年も、小学生4、5、6年生を対象にサマースクールを開講しました。8月1日から7日間、105人の生徒が出席し、1日目は大阪市自然史博物館で動物の骨のしくみを調べたり骨格をスケッチし、2日目は動物園で動物の観察、餌の調査など幅広く勉強し、3日目は園内見学の後、研究発表をして終了しました。(詳しくはP4、5のグラフ参照)

☆ピューマの出産

7月11日、ピューマが3頭生まれました。母親はこれが2度目のお産で、じょうずに育てています。



出産後10日ほど、母親が食欲を失い心配しましたが、現在は体力も回復してきており、3頭の赤ちゃんもすくすくと育っています。

☆オオヅル誕生

6月21日、オオヅルが産卵し、抱卵を続けていましたが、7月23日の朝、かわいいヒナが1羽誕生しました。昨年も1羽誕生生育しており、2年連続のおめでたです。



☆アカカンガルー誕生

5月頃からアカカンガルーの袋の中に赤ちゃんが入っているのが確認されていましたが、8月20日、初めて袋から顔を出しているのが認められました。この母親は昨年も2頭出産しており、繁殖も順調です。



☆フラミンゴの羽切り

フラミンゴの風切り羽が大分のびてきましたので台風シーズンを前に、8月11日、約40羽のフラミン



ゴの切羽を行いました。ほうっておくと、ちょっとした強い風にあおられて飛び上がってしまうので、例

年この時期に切羽を行っています。

☆目を楽しませる植物展示舎

中央門を入ったところに、よしず張りのできた植物展示舎ができました。ここには四季に応じた花を

展示する予定です。8月はいろいろな種類のアサガオが展示されました。秋にはさまざまな美しい菊を展示する予定です。



◎秋の行事のお知らせ

9月20日から1週間動物愛護週間が始まりますが、9月20日には当園最長寿動物エミューの表彰、9月23日は家畜動物総合感謝祭の催物の予定しています。

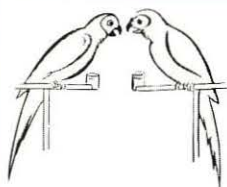
10月10日からは秋の動物園まつりが始まりますが、いろいろな催物を予定しています。

休園のお知らせ

毎月第三月曜日は休園日です。9月～11月の休園日は下記の通りです。

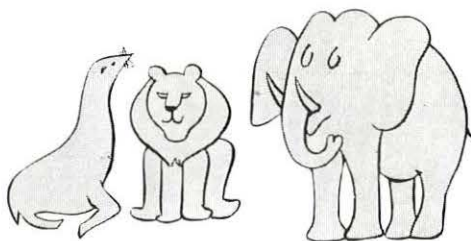
9月20日、10月18日、11月15日
開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売り止めです。

なきごえ 昭和51年9月15日発行 (毎月1回15日発行) 第12巻第9号(通巻133号)
 〒543 大阪市天王寺区玉水町2
 編集/大阪市天王寺動物園 電話 大阪 (06)771-0201
 発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳 振替口座 大阪 37823
 印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

〈小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三〉
 深井 和美・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・農本 武志